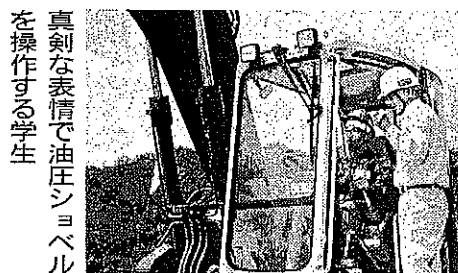


高校生が高所作業車の運転体験

大阪建設業協会(奥村太加典会長)は5日、兵庫県三田市の三田建設技能研修センターで「夏休み体験セミナー」を開いた。将来を担う高校生に建設業の役割と楽しさを理解してもらうのが目的で、今回が7回目。体験を伝えてほしい。もの参加した学生は講師の説明を受けながら建設機械に試乗したり、鉄筋・型枠を施工したり学校では学ぶことができない貴重な時間を過ごした。この後、二つのグループに分かれ、午前は高所作業

大建協、三田市で夏休みセミナー

セミナーは、同協会労働委員会が企画。府立布施工科高、大阪市立の工業高と都島工業高、堺市立堺高の4校から女子生徒4人を含む16人が参加した。

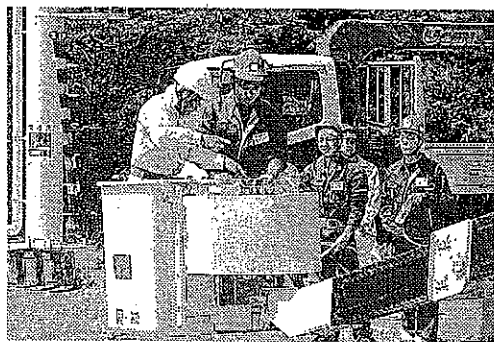


真剣な表情で油圧シヨベルを操作する学生

開講式で労働委員会の下西喜久委員は「ものづくりの素晴らしさを体験するのはもちろん、実習など授業でも活用し、保護者をはじめ、友人や後輩にも本日の最後に修了証を手渡した。

高校生が夏休みセミナー

大阪建設業協会は5日、兵庫県三田市の三田建設技能研修センター実習場で高校生を対象とする夏休み体験セミナーを開いた。大阪府下の府立布施工科高校、大阪市立工芸高校、同都島工業高校、堺市立堺高校から生

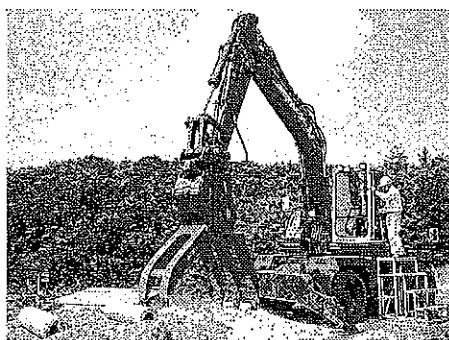


大建協 型枠、鉄筋作業を体感

徒16人と教諭5人が参加。大型の建設機械の運転と型枠、鉄筋作業を体験したII写真。

開講式では、同協会労働委員会の下西喜久委員が「建設業はものづくり産業であり、社会資本の整備、安全で安心できる暮らしの実現、環境の保全と創造を主な役割としている。建設業が将来にわたってその役割を果たしていくためにも、若年者の入職・育成と技能継承への積極的な取り組みが不可欠となっております。今年度もこのセミナーを企画した。ものづくりの素晴らしさを体感してもらい、将来ぜひ建設業界に入職してくれることを心から願っている」とあいさつした。

午前中は講師の指導のもと、



交代で高所作業車や油圧ショベルの運転席に乗り込み、講師のいねいな指導を受けながら全員が交代で機械を操作した。

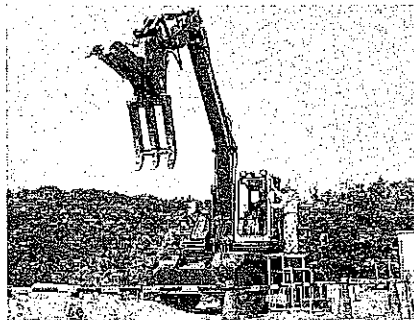
午後からは型枠と鉄筋の組み立てに挑戦。一般知識を学んだ後は、使用用具の使い方などのアドバイスを受けながら、施工図面をもとにした組立作業などの実技に汗を流した。

最後には生徒一人ひとりに修了証が授与された。

工業高校生ら16名参加

15年度夏休み体験セミナー 大建協

大阪建設業協会は5日、三田市香下の三田技能建設研修センター実習場で「15年度夏休み体験セミナー」を開催した。今年度は、布施工科高等学校8名、工業高等学校3名、都島工業高等学校3名、堺市立堺工業学校2名の4校、合計16名(内、女性4名)と先生5名が受講した。当セミナーは若年建設従事者の入職促進の一環として毎年、高校生を対象に実施している。開講式では、下西喜久大阪建設業協会労働委員会委員・淺沼組本社安全会委員・環境管理部長兼大阪本店安全・環境管理部長は、「建設業は、社会資本の整備、安全・安心できる暮らしの実現や環境保全と創造などの役割があり、その役割を果たしていくため、若年層の入職や育成・技術継承は必要不可欠である。本セミナーは今回で7回目となるが、是非ものづくりの素晴らしさを体験して頂き、建設業界に入職されることを願う」と挨拶を述べた。



開講式が終わると実習場に移動し、午前は、高所作業車や油圧ショベルの建設機械を運転、午後は、型枠施工・鉄筋施工の組立作業や一般知識・使用道具の取り扱いなどについて学び、体験した。

が、是非ものづくりの素晴らしさを体験して頂き、建設業界に入職されることを願う」と挨拶を述べた。



鉄筋施工体験に汗

夏に結束！ 高校生ものづくり体験

「夏に結束！」。大阪府内の高校生が鉄筋施工などを体験するセミナーが開かれ、猛暑の中、力を合わせて「ものづくり」を体感した。 ※9面につづく

大建協「夏休み体験セミナー」

高所作業車など試乗

1面関連 大阪建設業協会は5日、高校生を対象とした実技体験ができる「夏休み体験セミナー」を兵庫県の三田技能建設研修センターで開いた。

若年建設従事者の入職促進の一環として7回目となった今回、布施工科、工芸、都島、堺の4校から2年生16生徒（うち女子生徒は4人）が参加。受け入れた近畿建設技能研修協会の木村厚志技能



府内4校から16生徒が参加

実習課長の指導の下、前には高所作業車と油圧シヨベルの試乗、午後か



高所作業車に試乗も

らは鉄筋・型枠の施工体験を行った。

協会労働委員を務める浅沼組の下西喜久安全・環境管理部長は「セミナーを通じて、ものづくりの素晴らしさを体験していただくとともに、将来の実習などの授業で

活用してもらい、保護者の方や友人、後輩にも体験をぜひ伝えてほしい」とあいさつ、「きょう1日でたくましくなった」と体験を終えた全員に修了証を手渡した。

参加した生徒は、机上の知識でない、実体験による作業の難しさを額に汗しながら体感、引率した布施工科高校の小倉一浩教諭は「現場をもっと身近に感じさせることが入職への広がりとなる」と、出前講座など業界からの積極的なアプローチを求めた。

高校生にもものづくりの 魅力と役割実感 今年も

大建協が恒例「夏休み体験セミナー」

一般社団法人大阪建設業協会は五日、兵庫県三田市香下の三田建設技能研修センター・実習場で若年建設従事者の入職促進事業の一環として高校生を対象とした「夏休み体験セミナー」を開催。大阪府下の工科系高校など四校の生徒十六人及び引率の各校教員五人が実習等に汗を流した。

午前八時にJR環状線・大阪城公園駅の改札出口に集合。一行はバスに乗り込み、一時間半ほど

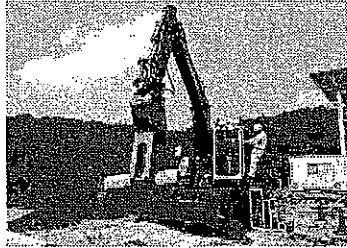
挨拶する下西委員



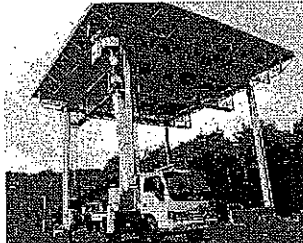
で同センター実習場に到着した。開講式では主催者を代表して下西喜久同協会労働委員会委員は「建設業は、歴史や未来をつくる『ものづくり産業』であり、社会資本の整備、安全で安心できる暮らしの実現、環境の保全と創造

を主な役割としている。きたい。そして一人でも建設業が将来にわたり、多くの方がものづくりにその役割を果たしていく、対する夢や希望を持つて為にも若年者の入職・育建設業界に入職されること成及び技能継承へ積極的とを期待している」と挨拶取組みが必要不可欠と挨拶した。

ナは、今回で七回目をラムの建設機械の運転操迎えることとなり、一日作にチャレンジ。用意さの限られた時間だが、建れた高所作業車、油圧シ設機械の運転、施工体験、ヨベルに乗り、講師の指を通して、普通の授業で示を聞きながら、アクセはできない体験をして頂ルやレバー操作も最初は



講師の指示を聞きながら建設機械の操作にチャレンジ



高所作業車で屋根部分に近づいた

恐る恐るだったが、操作のコツを掴むとあとは機敏な動きになり指導をする講師もすっかり感心していた。

昼食後は、鉄筋施工(組み立て作業)を実施。実技教材をモデルにした加工組立て等、使用する用具の基本かつ安全な使用方法を学びながら鉄筋作業での基礎配筋として柱・はり・スパーサーの取り付け等の一連の作業に汗を流した。

最後に全員に修了証が授与され、無事セミナーを終えた。

府下高校生16人が参加

大建協 夏休み体験セミナー



下西委員

労働委員会が主催したもので、セミナーには大阪府下の高校四校から二年生一六名の生徒が参加、建設機械の運転、型枠・鉄筋の実習などが実施された。

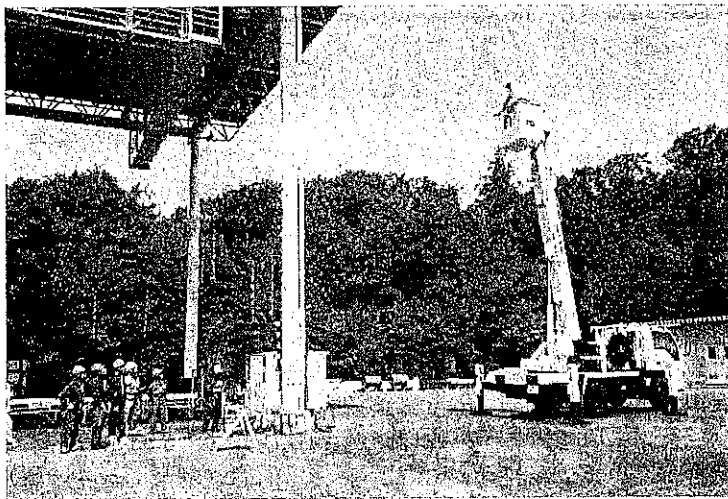
大阪建設業協会(奥村太加典会長)では、高校生を対象とした「平成二十七年夏休み体験セミナー」を四日、兵庫県三田市の三田技能建設研修センターで開催した。若年者に対する入職促進活動の一環として、同協会果たしていくうえで、若手技術者の確保・育成及び技術の継承に向けた取り組みが必要不可欠である」と強調。

また、今回のセミナーを通じ、ものづくりの素晴らしさを体感すると同時に、この体験について、学校の友人や後輩へ伝え「一人でも多く、建設業界に入職していただきたい」と体験セミナーの成果に期待を寄せた。

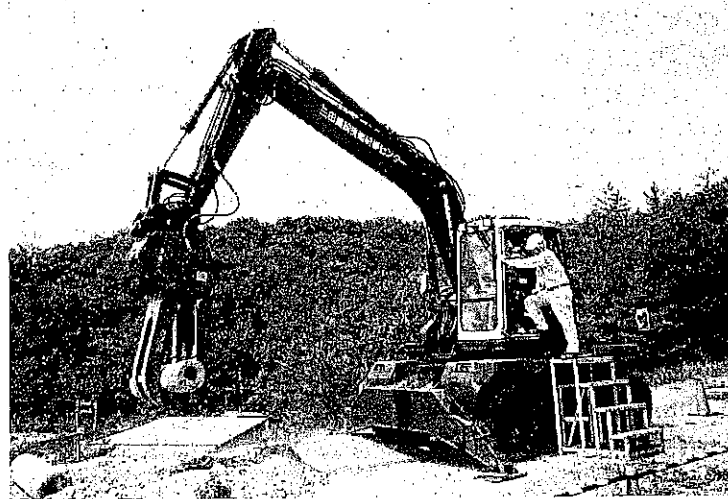
また、今回のセミナーを通じ、ものづくりの素晴らしさを体感すると同時に、この体験について、学校の友人や後輩へ伝え「一人でも多く、建設業界に入職していただきたい」と体験セミナーの成果に期待を寄せた。

セミナーでは、同セン

タリーの講師指導のもと、生徒たちが高所作業車と油圧ショベル二台を運転したほか、枠型施工と鉄筋施工の作業では、それぞれの作業に必要な施工手順を説明した。また、大阪府立布施工科高等学校(八名)▽大阪市立都島工業高等学校(三名)▽大阪市立工業高等学校(三名)▽堺市立堺高等学校(二名)。



高所作業車を体験



油圧ショベルを運転